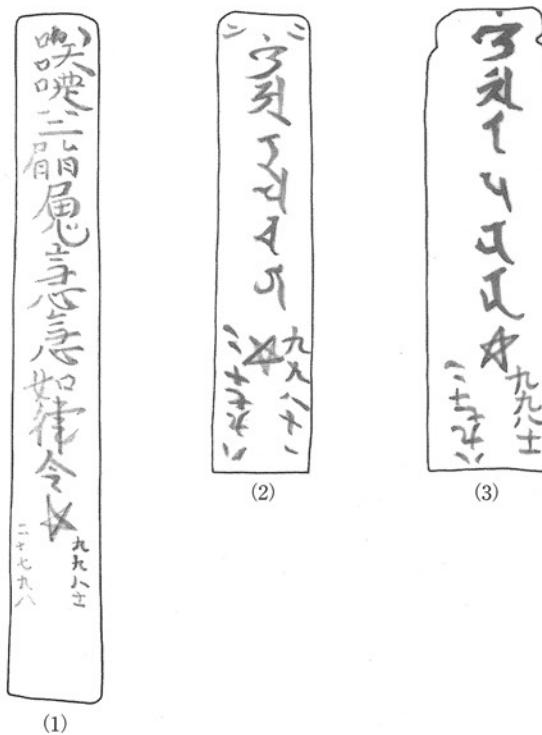


字が墨書きされる。(3)も完形。冒頭に文殊菩薩を示す梵字が墨書きされる。

(重見高博)



島根県古代文化センター編集・発行

『山陰古代出土文字資料集成』I (出雲・石見・
隱岐編) の刊行

本書は、島根県関係の古代出土文字資料を集成した資料集である。

第一部古代出土文字資料集成では、まず文字資料が出土した遺跡ごとに1所在地、2調査機関、3遺跡の概要、4文字資料出土状況、5文字資料の内容、6文献の各項目が記述され、遺跡位置を示した五万分の一地形図を付す。続いて文字資料一覧表として、遺物の種類ごとに(A墨書き土器・文字瓦・木器、B木簡・漆紙文書・銘文大刀)一覧表を掲げ、さらに実測図・写真を掲載する。概ね『木簡研究』のスタイルによりつつ、出土文字資料全般、特に墨書き土器を対象とするために、釈文と図版を一覧表化したもので、一つのスタンダードとなり得る体裁といつてよい。

第二部は論考編で、関和彦「蛇喰遺跡と忌部神戸」、野々村安浩「土器記載のへら書き文字についての予察」、森田喜久男「白坏遺跡出土木簡について」、平石充「出雲・隱岐国出土の墨書き土器について」の四編を収録する。

A四版一九〇頁、二二〇〇三年三月刊 頒価二〇〇〇円

申込先 島根県文化財愛護協会(島根県教育厅文化財課内)

TEL〇八五二一三一五八七九